



# かしわの木

平成31年2月7日  
東村山市立東村山第五中学校

## やる気のスイッチ

安藤 環

立春を迎え、春のような陽気になったかと思うと、また冬に逆戻りしたような寒い日が訪れたりします。しかし、朝夕の光のとどき方は着実に季節がめぐり、春が近づいてきていると感じさせてくれます。そんな中で、1年生はスキー教室、2年生は校外学習として都内めぐりを行いました。

私は、1年生のスキー教室に同行し、3日間生活をともにしました。その中で普段なかなかじっくり話すことができない子供たちと楽しく話すことができました。また、実行委員として呼びかけたり、スキーがとても上手な生徒が、雪上で倒れて困っている他の実技班の生徒を助けてくれたりするなど、子供たちの生き生きとした姿を見ることができました。



一方で、3年生はいよいよ入試が始まりました。3年生は入試のために、12月から面接の練習を行っています。これは、私や副校長、そして他学年の教員などが面接官になって、実際の面接試験のように質問をして3年生に答えてもらうという練習です。本番さながら、先生と1対1で15分間くらいの面接を行います。1対1での面接、ましてや普段なかなか話をしたこともない校長との面接ですから、みんなとても緊張した様子で校長室に入ってきます。

実は、私はこの面接練習が大好きです。なぜなら、自分の将来について真剣に語ってくれる時の生徒たちの眼差しや表情がとても良いのです。その瞳は本当に希望に満ち溢れ、輝いて見えます。若者らしい力強さや初々しさが垣間見られるのもまた良いところです。その話を聞いたたびに、ぜひ夢を実現して欲しいと、心から応援したくなります。

そんな3年生も、では1年生や2年生の時から自分の将来について真剣に考えて来たかということ、おそらくそうではないと思います。しかし、入試のために勉強し、卒業後の自分の進路を考えなければならない時期になると、少しずつ真剣に考えるようになるのだと思います。

私は1年生や2年生にも、自分の将来について、できるだけ早いうちから考えてほしいと思っています。なぜなら、将来の夢や目標があったほうが、やる気がでたり、頑張ったりすることができると思うからです。学習にしろ、運動にしろ自分を伸ばすためには、いかに自分がやる気になるかが大切です。よく「やる気のスイッチ」などとも言われますが、本当にやる気になるためには、自分自身でこのスイッチをONにするしかありません。このスイッチを大人がONにすることはできませんが、大人はやる気になるための刺激を与えてあげることができていると思っています。

それは、普段の何気ない会話なのだと思います。家庭での何気ない会話の中で子供たちの考えを聞いてあげたり、親というよりは一人の人間として自分の考えを伝えたりする中で、子供たちは、自分の人生観を形作ったり、あるいはやる気を出すためのヒントを得たりするのだと思っています。

今月は多くの3年生が、いよいよ入試の本番を迎えます。どうか一人一人が実力を出し切ることを願っています。

### 道徳授業地区公開講座

1月19日(土)に本校では道徳授業地区公開講座を行いました。各学年で道徳の授業を行い、その後、視聴覚室で佐々木辰彦先生をお招きして協議会と講演会を行いました。協議会への参加者は少なかったですが有意義な話し合いができました。



### 市民の集い

1月27日(日)に「東村山市中央公民館で市民の集い」がありました。本校からは1

年生の中内さんと柏木さんが司会をしてくれました。また、生徒会長から防災教育についての取組についての発表がありました。

### 第10回中学生「東京駅伝」大会

2月3日(日)に味の素スタジアム内のアミノバイタルフィールドと武蔵野の森公園にて第10回中学生「東京駅伝」大会が行われました。午前10時から女子、午後1時から男子で東京都内の50の区市町対抗の駅伝競技を行いました。東村山市は女子で11位、男子で23位と健闘しました。本校からも4名の生徒が参加してくれました。